

1 週間の時間割例

[2 年次] 基礎専門科目を中心に実験・実習などを選択

	MON	TUE	WED	THU	FRI
1		数理学	Interactive English I	情報処理論	心理学
2	Effective English I				物理学
3		生物学実験／地学実験	Natural Science		化学概論Ⅱ
4		生物学実験／地学実験			物理学概論Ⅱ
5		生物学実験／地学実験	英米表象文化入門	博物館教育論	

[3 年次] 注) 主に3年次以降は4学期制となり、週2回講義がある。物理学、化学、生物、地学、情報解析学系の専門科目が開講され、専門分野を自由に選択できる。

	MON	TUE	WED	THU	FRI
1	海域連携利用論		海域連携利用論	海洋地盤工学	
2	海洋エネルギー工学Ⅰ	沿岸工学	海洋エネルギー工学Ⅰ	海洋地盤工学	沿岸工学
3	海洋資源工学Ⅰ	海底科学Ⅱ	海洋資源工学Ⅰ	キャリア形成論Ⅱ	海底科学Ⅱ
4	海洋自然エネルギー学		海洋自然エネルギー学		
5	電気電子工学	海洋音響学	電気電子工学	博物館教育論	海洋音響学

取得可能資格

- 中学校・高等学校教諭一種免許状（理科）
- 高等学校教諭一種免許状（水産）
- 技術士補
- 学芸員
- 三級海技士（航海）※

※ 本学は第一種養成施設として国の登録を受けており、学部及び、海洋科学専攻科（p.43）を修了すれば、筆記試験が免除されます。

卒業後の進路

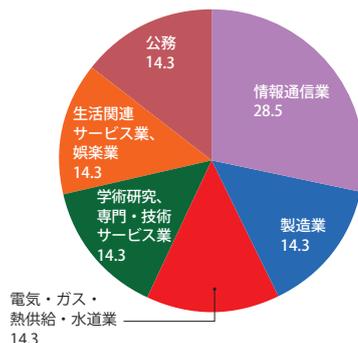
令和3年度卒業生（%）

大学院進学	61.0
海洋科学専攻科	19.5
就職	17.1
その他	2.4

就職先

イオスエンジニアリング&サービス、SCSK、ESRI ジャパン、ENEOS グローブ、海上自衛隊、京葉ガス エナジーソリューション、構造計画研究所、ジャパンガスエナジー、ジャパン・リニューアブル・エナジー、鳥取県庁（水産職）、日本気象協会、日立パワーソリューションズ、ファイナンシャルブレインシステムズ、光岡自動車、若築建設、ワールドハイビジョンチャンネル 等

就職先業種



令和3年度卒業生産業別就職状況（%）
※進学等を除く学部卒業者の実績
※大学院修了者の就職状況は P.44 参照

学科担当教員の研究分野・内容

■ デバイス工学

海洋エネルギー・資源利用のための超電導・電気電子デバイスや機器の開発

■ 海洋地球化学

地球化学的・地質学的手法による海底資源に関する海洋物質循環・海洋環境の研究

■ 海洋地盤工学

海洋構造物の基礎の変形と安定、海底地盤の調査、海底斜面の崩壊、海底鉱物資源の開発

■ 海域地震学

海域地震観測による地球内部構造・地震活動の研究

■ 海洋底地質学

地質学的手法による海洋底における資源・環境・災害の評価とプロセスの解明に関する研究

■ 物理探査・地震学

地震学的手法による海陸の地下構造探査と地下環境変化の4次元モニタリングの研究

■ 海洋気象学

海洋の気象現象把握と気象情報を活用した再生可能エネルギーへの応用研究

■ 海洋安全工学

船舶・海上労働の安全に関する諸現象の解析

■ 応用情報学

水面下の生物等の行動を解明するためのシステム開発と実践

■ 沿岸域工学

沿岸での波浪や海浜変形、海洋構造物周辺の諸現象、沿岸防災などの研究

■ 海洋数理工学

海洋における諸現象に対して非線形力学系・複雑系の観点から数理モデルを構築し数値解析を行う

■ 海洋音響計測学

生物等を対象とした音波による水中センシング技術の開発と応用

■ 海洋生物音響学

海洋生物の音に関する研究、音を用いた行動・生態研究

■ 海洋システム制御工学

海洋クレーン、水中ピークルなど海洋機械システムの自動制御手法

■ 海洋環境化学工学

鉱物資源開発の環境影響抑制技術、海水を用いた鉱物分離技術、廃水処理技術